

第 26 期日本学術会議政治学委員会第 3 回委員会・会議記録

日時： 令和 7 (2025) 年 4 月 15 日 (火) 16 時 30 分～17 時 10 分

場所： 日本学術会議 5－B 会議室及びオンライン会議システム併用のハイブリッド開催

出席者： 鈴木基史（委員長）、谷口尚子（副委員長、オンライン出席）、城山英明（幹事）、早川誠（幹事）

配布資料： なし

議事

（１） 令和 6 年度の活動報告（政治学委員会および各分科会）

主たる活動について、以下のように報告された。

- ・人口減少下の行政・地方自治分科会：公開シンポジウムを日本行政学会等と共催した。
- ・政治の歴史と主権者教育分科会：分科会を 1 回実施し、今後予定しているシンポジウムの企画案について討論した。
- ・現代政治過程における課題分析・制度設計分科会：他分科会からの協力も得て、政治学委員会主催の公開シンポジウムの実施を実現した。
- ・民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会：民主主義の退行・選挙の危機に関する研究会を頻繁に実施している。
- ・紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会：公開シンポジウムを実施し、今後書籍としての発行も検討している。

（２） 令和 7 年度の活動計画（政治学委員会および各分科会）

主たる計画について、以下のように報告された。

- ・行政・地方自治分科会（以下、分科会名は略称）：他分科会と連携しながらシンポジウム開催などを企画していく。
- ・主権者教育分科会：シンポジウムに向けて準備を進めていく。
- ・政治過程分科会：選挙の危機に関するシンポジウムを企画していく予定である。
- ・比較政治分科会：分科会として意志の表出を予定している（下記参照）。
- ・国際政治分科会：秋頃にシンポジウム実施を予定するとともに、関税問題などについての企画を構想している。デジタル関係の他分科会との協力を継続するとともに、予算化されたサイエンスカフェ活動についても政治学委員会全体の一活動と位置づけ推進していく。

(3) 比較政治分科会等の意思の発出について

・法学委員会ジェンダー法分科会とともに「見解」提出の準備が順調に進められている。女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備についての見解となる。

(4) その他

①情報学委員会からの申し入れを受けて、情報学委員会と政治学委員会の共催等の形で、生成 AI・デジタルと市民参加・政治等に関するシンポジウム企画を検討していくことが確認された。

②予算について：第一部の部会での報告に基づき、今年度は予算が増額となったため委員会・分科会に対面・ハイブリッドでも旅費予算がつくようになったことが確認された。

③第一部夏季部会について：8月初旬に公立はこだて未来大学での実施が企画されていることが確認された。

④議事録の日付修正：前回議事録の日付に誤りがあり、日時が「日時：2023 年 10 月 21 日 16 時 40 分～17 時 40 分」となっているところ、「2024 年」に修正することが報告された。

次回の政治学委員会は 10 月総会時に開催予定であり、その間に必要な事項はメール審議やオンライン会合などで取り扱うことが確認された。

以上